

平成30年度着手 「荒川第二・三調節池事業」について

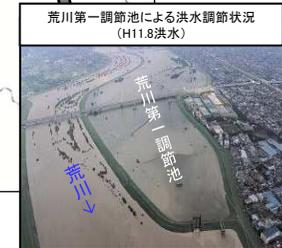
平成31年2月28日

国土交通省 荒川上流河川事務所



荒川第二・三調節池事業の概要

- 荒川流域は、東京都と埼玉県にまたがり、流域内には、日本の人口の約8%が集中しています。特に埼玉県南部及び東京都区間沿川は人口・資産が高密度に集積している地域となっています。
- 荒川の治水安全度向上のための抜本的な対策として、広い高水敷を活用した調節池の整備に着手しました。

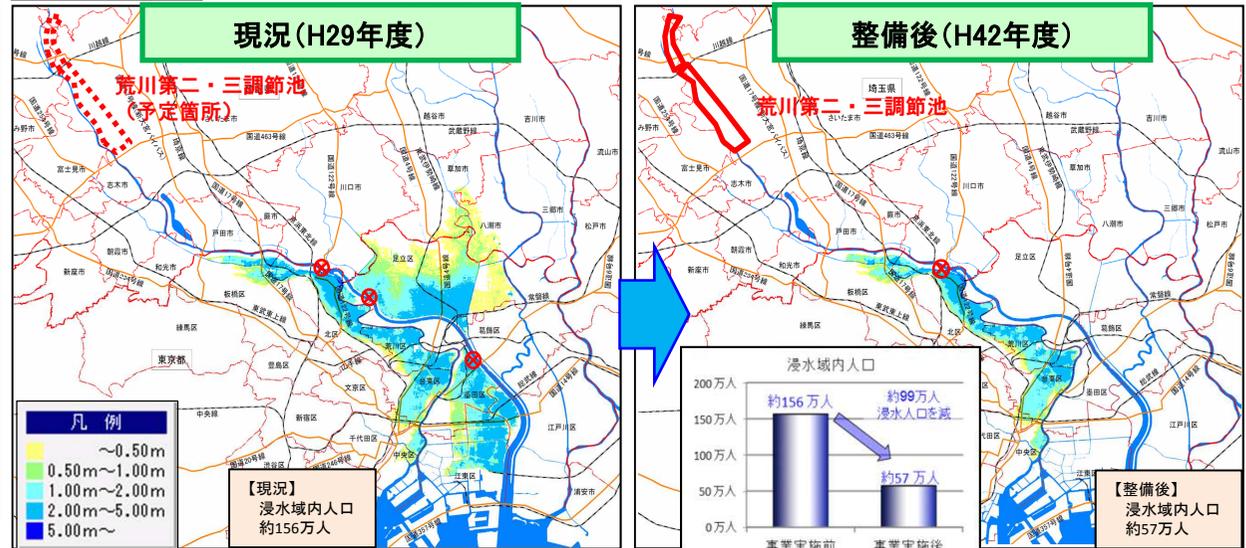


事業の内容

- 場所
埼玉県さいたま市、川越市、上尾市
- 全体事業費
約1,670億円
- 事業期間
平成30年度～平成42年度
(2018年度～2030年度、13年間)
- 事業内容
荒川第二・三調節池の整備
面積 約760ha (第二:約460ha,第三:約300ha)
治水容量 約5,100万m³
(第二:約3,800万m³,第三:約1,300万m³)

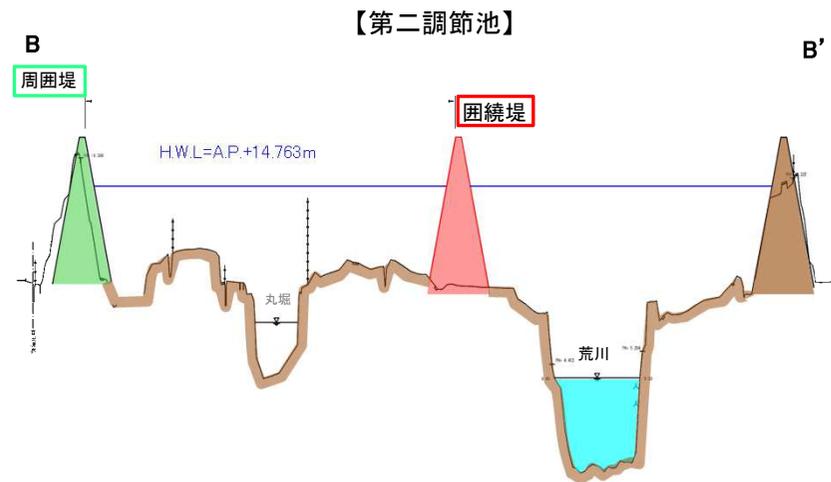
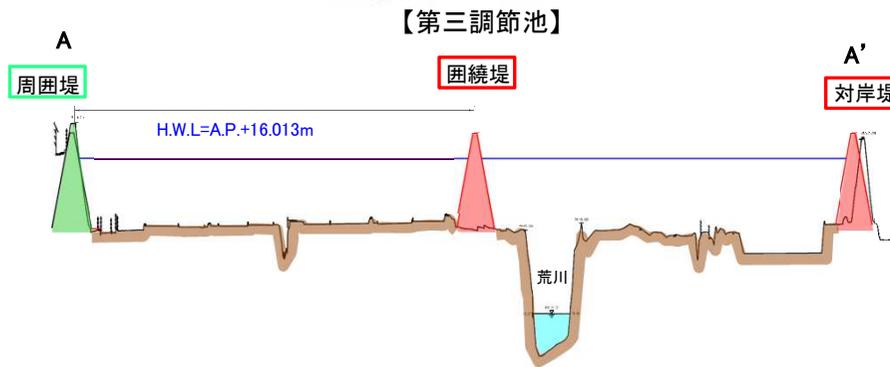
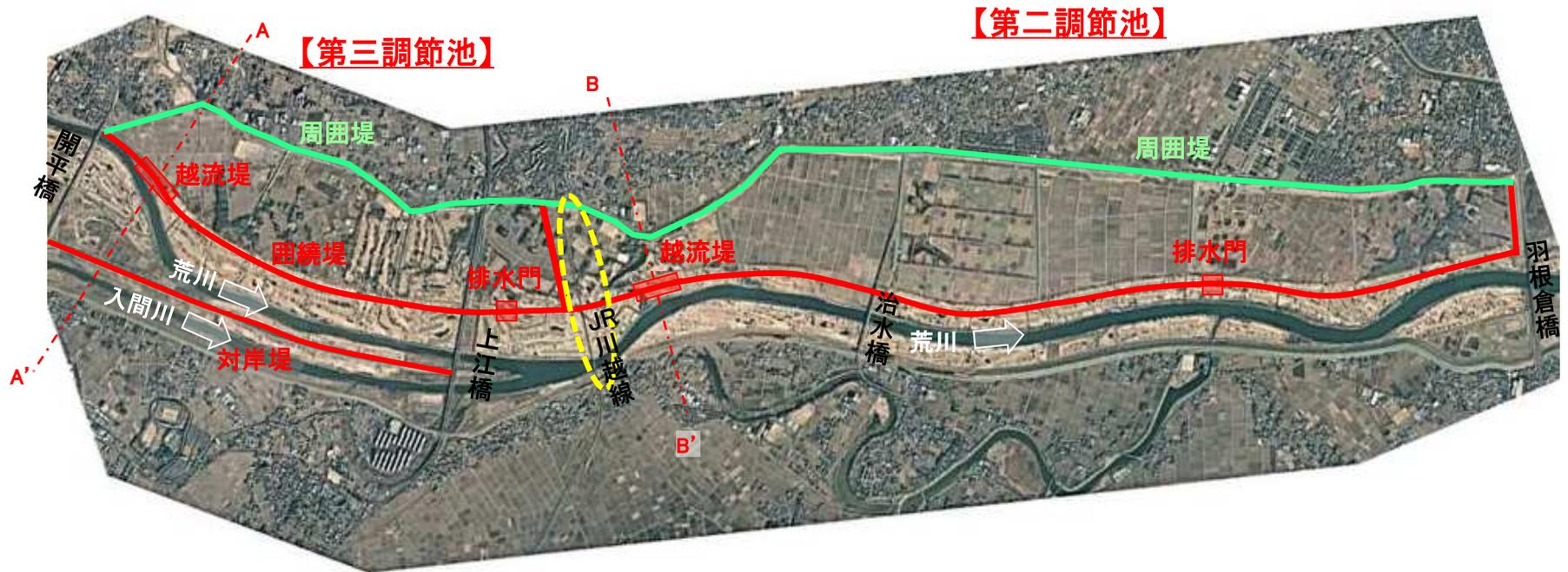
事業の効果

<流量規模1/100による浸水範囲の比較
(荒川下流域における破堤シミュレーション結果)>



荒川第二・三調節池 事業計画平面図(検討中)

事業概要図



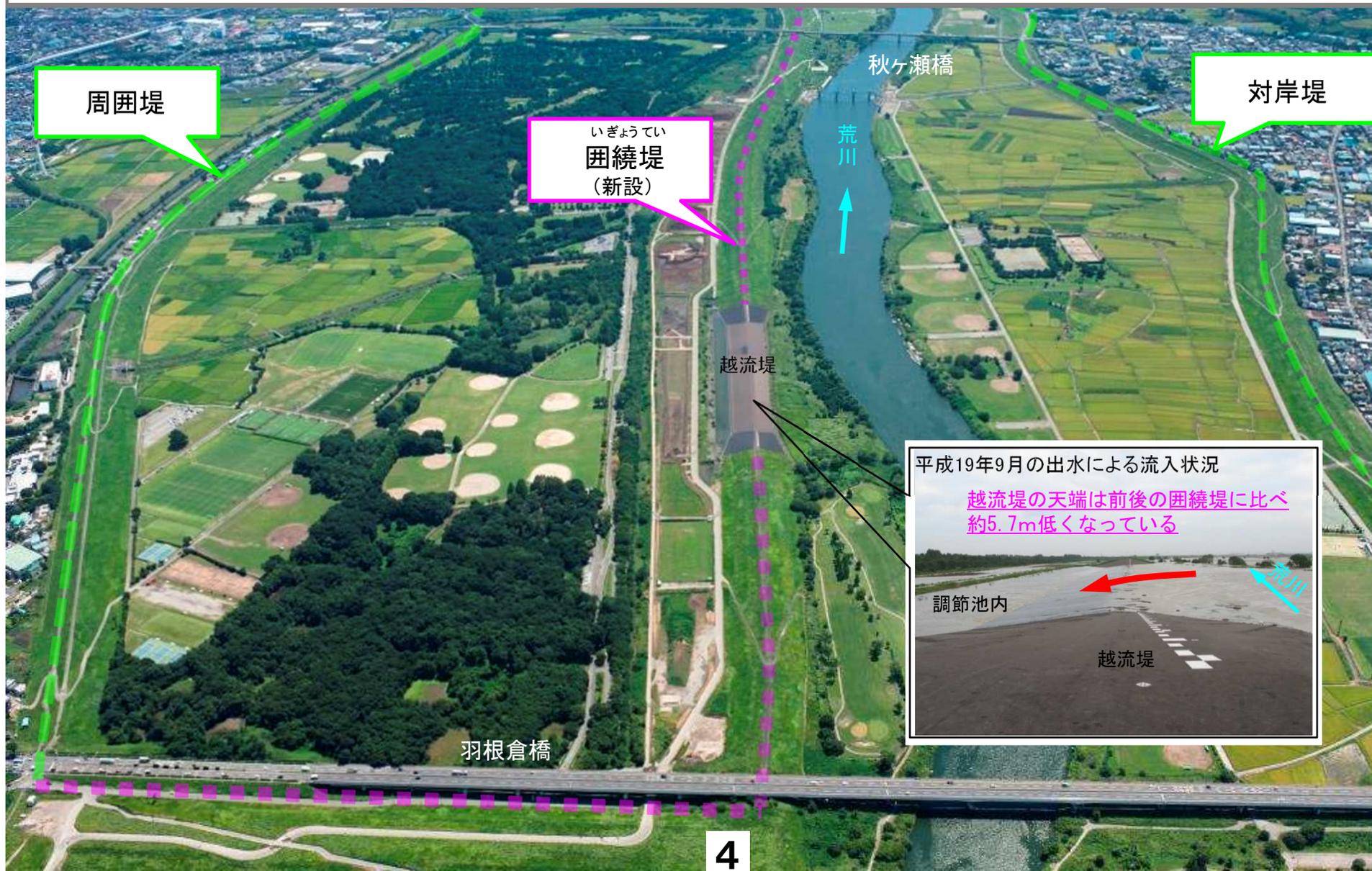
※このほか、水路等の施設整備のための池内の掘削及び影響する構造物対策を実施

注) 写真、図中の堤防、越流堤、排水門の詳細は、今後調査、検討を行った上で決定するものであり、表記の位置等は変更する場合がある。

《参考》

荒川第一調節池の現状(上流部)

荒川の調節池は、川の中に囲繞堤を新設し、その上下流端を既設堤防に接続して高水敷を調節池化するものです。囲繞堤の一部に高さを抑えた越流堤を設け、河川水位の上昇により、越流堤から洪水が取り込まれ洪水調節を行います。



河川敷を利用した調節池による洪水調節

●荒川第一調節池

【洪水中】



囲繞堤を造ることで、中小洪水程度では、河川敷が水につかりにくくなります。

(写真は、平成19年9月洪水時の状況)

【洪水後】



調節池に洪水が入った後は、荒川の水位低下に合わせて、下流の排水門を開けて放流します。

●荒川第二・三調節池

◎荒川第二・三調節池では、第一調節池と同様に、主な施設として囲繞堤、越流堤、排水門を設けることにより洪水調節を行います。

◎荒川第二・三調節池の目的は、治水のみであり、第一調節池における「彩湖」のような、水道用水確保を目的とした貯水池は造りません。

◎現況の土地利用にできるだけ影響しないように、堤防等の施設整備を行う予定です。

現在の状況(各種調査、検討)

●現在は、第二・三調節池の計画を具体化するために、調節池予定地の高水敷とその周辺において、広範囲の測量、土質調査、地下水調査、環境調査等を行っています。

土質調査(ボーリング)



土質調査(サウンディング・自走式)



土質調査(サウンディング・手動式)



UAVレーザ測量による地形測量



環境調査(昆虫類)



調節池内の土地利用者、土地所有者等との調整

- 荒川第二・三調節池の予定地である高水敷は、国有地、民有地ともに様々な形で利用されています。
- 河川敷内を利用されている方、土地を所有されている方など、多くの関係者の理解と協力を得ながら、事業を進めて参ります。

調節池予定地内の利用状況

農地(写真は第二池)



堤外民家(写真は第二池)



ゴルフ場(写真は第二・三池)



フットサル場(写真は第三池)



自転車道(写真は対岸堤)



自動車教習所(写真は第三池)



サーキット場(写真は第二池)

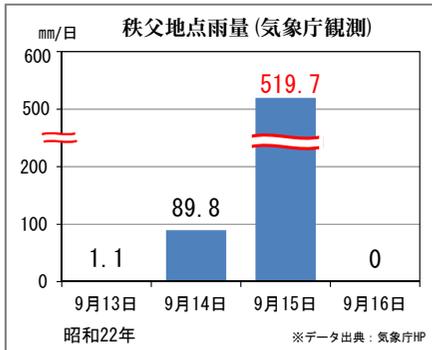


野球場(写真は第二池)

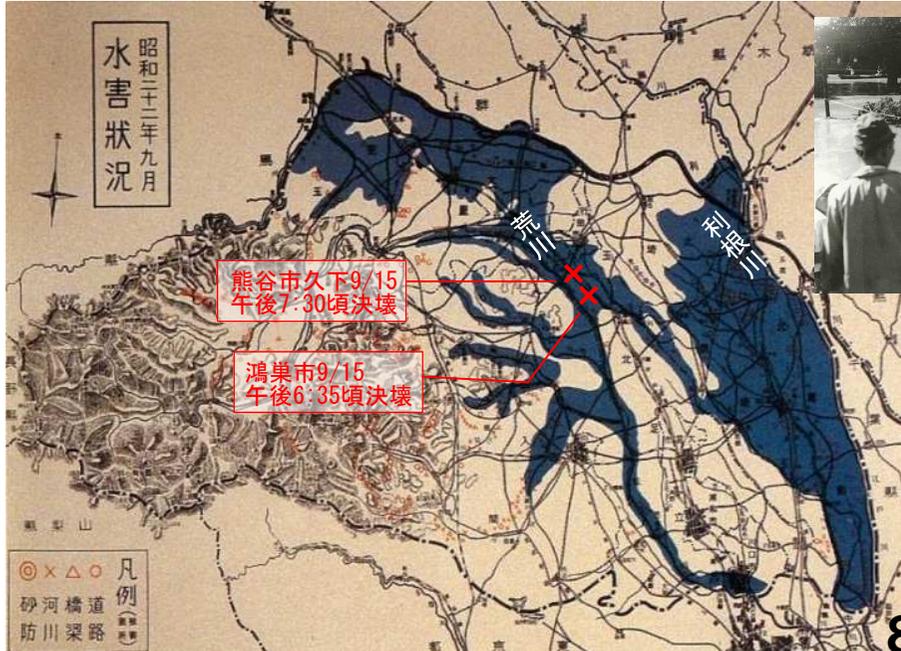


カスリーン台風 ～昭和22年9月. 荒川の戦後最大の大洪水～

- 台風は、停滞していた前線を刺激しながら、関東地方にゆっくりと接近。前線と台風本体は、広範囲に渡り多量かつ高強度の降雨をもたらした。秩父では、累加雨量600mmを超えた。
- 荒川の堤防は、9月15日に鴻巣市で左岸約65m、熊谷市久下で左岸約100mに渡り相次ぎ決壊。利根川の氾濫と合流した濁流は、沿川市区町村を飲み込みながら9月20日には東京湾に達した。



▼昭和22年カスリーン台風の氾濫区域図 (出典「埼玉県水害誌」に荒川本川の堤防決壊地点を加筆)



川口市内の浸水状況



川越市内の浸水状況

▼被害状況

死者・行方不明者	109 人
床下浸水	79,814 戸
床上浸水	124,896 戸
全半壊・流失	3,428 戸



葛飾区内の浸水状況